



なごや「聖歌」だより 9月号 '10

聖ニコライのトロパリー日本語と英語で・・・

戦前戦後とニコライ堂の指揮者を務め、たくさんのロシア聖歌を日本語に編曲した、ヴィクター・ポクロフスキーのひ孫たちと日本の高校生と一緒に晩課を祈り、聖ニコライのトロパリは日本語と英語で歌いました。お馴染みのメロディなので、10分ほどリハーサルをして祈りに臨みました。日本語のものにもローマ字でルビをふり、英語版はアメリカの聖歌者の方が送ってくれました。共通の内容でありながらその国の言語で歌われるという正教の伝統を実感することができました。

4調の簡単なメロディですが、英語のアクセントやイントネーションに合わせてメロディのパターンが配置されているのがわかります。たとえば、6行目のA-pos-tle、アクセントのあるposに合わせて音を動かしています。これは正教聖歌を翻訳編曲するとき、最も大切な原則で、日本語に訳す場合も同じです。メロディの定型を大きくつかんで、日本語の歌詞を当てはめ、何度も歌ってみて修正します。西洋音楽では原曲のメロディを無闇に変えることはできませんが、正教会の聖歌の場合は歌詞を生かすことが第一です。そのためには、言語に合わせて調整された部分を見極めることが大切です。彼らのひいおじいさんのポクロフスキーも、日本語に合わせてメロディをかなり変えて編曲しました。



聖歌練習

♪名古屋：主日聖体礼儀後、

気の付いた点を短時間練習します。また主日朝、9時15分頃から声出しウォーミングアップをしています。どなたもご参加できます。

♪半田：9月8日(水) 12:00

9月の指揮当番 5日マリア松島 19日ピーメン松島
26日エレナ広石

TROPARIUM TO OUR HOLY HIERARCH
NICHOLAS OF JAPAN

Tone 4

O holy hierarch Father Nich - o - las, the En - light - en - er of Ja - pan,
thou didst share the dignity and the throne of the A - pos - tles:
thou art a wise and faithful ser - vant of Christ, a temple
chosen by the Divine Spir - it, a vessel overflowing with the love
of Christ. O holy hierarch equal to the A - pos - tles, pray to
the life - creating Trin - i - ty for all your flock and for
the whole world.

ズナメニ研究会

次回は9月15日1:30

♪大阪：ニコライ祭聖歌参加のための練習会

10月9日から11日に西日本主教区主催で「聖ニコライ」記念行事が大阪で行われます。当日の聖体礼儀の聖歌参加希望者を募っています。難曲も多いので、参加者は必ず大阪教会の聖歌練習に出てください。8月15日16日に名古屋から6名参加しました。別途名古屋でも補助練習を毎週水、土(15時から17時)に行っています。

※練習参加のための大阪までの交通費などは聖歌隊で負担します。

詳細、申し込みは広石まで。

9月以降の大阪教会の練習日は

12日(日)代式後、12時から16時まで

20日(月・祝)朝10時から16時まで

10月3日(日)最終練習日13時から16時まで

9. カタワシヤ 共頌歌

καταβασία (καταβαίνωは降りるの意)
катаваси́я

本来は左右の聖歌隊が聖堂中央に集まって歌うことを言います。13世紀にはソロの歌手、両聖歌隊が定位置であるクリロス（ソレヤ、イコノスタスの前の高くなったところの左右両端）から降りてきて、聖堂の中央に集まって歌う歌をカタワシヤと呼ぶようになりました。例えば1207年のモスクワ（ウスペンスキー）コンダカリ写本には、「星を以て博士を召して」の歌をカタワシヤと分類しています（今は、降誕祭のカノン第3歌頌に続くイパコイ）。他には「爾が己の顕現にて万有を照らしし時...」（神現祭のカノン第3歌頌後のイパコイ）「マリアと共に在りし女ども」（復活祭のイパコイ）などもカタワシヤでした。現在では「カタワシヤ」はカノンの各歌頌、あるいは、歌頌グループ（1と3歌頌、4、5、6歌頌、7、8、9歌頌）を締めくくるイルモスがカタワシヤと名付けられています。

日本で通常カタワシヤと呼ばれているのは『生神女のカタワシヤ』で、8調各調のイルモスの代用として用いられています。本来は、主日早課などに、カノンの各歌頌の締めくくりとして歌われる歌です。主日早課を祈祷書通りに行うとすれば「復活のカノン」「十字架のカノン」「生神女のカノン」「聖人のカノン」が歌頌ごとに順次歌い、各歌頌の最後のカノン（聖人のカノン）の最後に両詠隊が声を揃えて「生神女のカタワシヤ」を歌います。ほかに、復活祭期に「カタワシヤとしてパスハのイルモスを歌う」という指定があります。これも同様で各歌頌のカノンを歌ったあと、締めくくりパスハのイルモスを歌うのが祈祷書に指示されたとおりの歌い方ですが、日本ではパスハのイルモスだけを歌うことが大半です。

省略しないで行えば

（例）主日1調 カノン 第1歌頌の場合

第一歌頌

○復活のカノンの第1歌頌

イルモス、死せざる主よ、勝る爾の右の手は、...
附唱、主よ、光栄は爾の聖なる復活に帰す。

讃詞、元始に至浄なる手にて神の力を以て...（二次）

「光栄は」

生神女讃詞、恩寵の泉よ、慶べ、天の梯と門よ、慶べ、...

「今も」、

生神女讃詞、恩寵の泉よ、慶べ、天の梯と門よ、慶べ、...

○十字架復活のカノンの第1歌頌

イルモス、「ハリストス生る」。

附唱、主よ、光栄は爾の尊き十字架と復活に帰す。

ハリストスは人体を取りて我を神成し、...

附唱、主よ、光栄は爾の尊き十字架と復活に帰す。（※あるいは

「光栄は」

ハリストスは十字架に釘せられて我を上せ、...

「光栄は、今も」（※あるいは「今も」）

生神女讃詞

童貞女よ、爾は神を孕めり、至浄なる者よ、...

○至聖なる生神女のカノンの第1歌頌

イルモス、「死せざる主よ、勝る爾の右の手」。

附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。

我等の不能は爾に適ふ何の歌をか爾に奉らん、...

附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。（※あるいは「今も」）

我等信者は永貞童女、上なる軍の王の母に...

「光栄は、今も」（※あるいは「今も」）

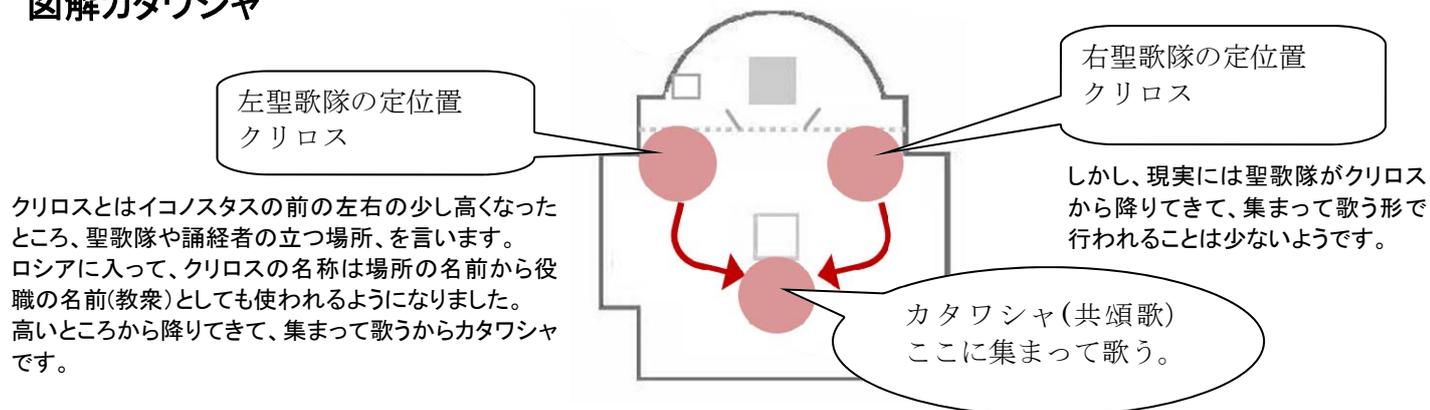
純潔なる者よ、爾の悟り難き産の奥義の淵は量られず、...

○月課経からその日の聖人のカノンのイルモスと讃詞を同様に歌い、最後にカタワシヤとして「我が口を開きて」を歌う。

それから、第3歌頌の復活のカノンのイルモスと讃詞、十字架復活のカノンの第3歌頌イルモスと讃詞、生神女のカノンのイルモスと讃詞、月課経の聖人のカノンのイルモスと讃詞を歌い、最後にカタワシヤで締めくくる。第3歌頌以下も同様に行う。

全部のカノンを行うと、それだけで1時間以上かかってしまうので、適宜省略して行われます。

図解カタワシヤ



ホームページのご案内

○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。

「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>

詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 Liturgia

<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料